

し ん ま ち の
新 町 野 遺 跡

発掘調査概報Ⅲ



(第518号土坑 遺物出土状況)

平成 18 年度

青森市教育委員会

序

青森市教育委員会では、東北新幹線建設工事に伴い、新町野遺跡の発掘調査を平成15年度より継続し実施しております。最終年度となる今年度は、第四次の発掘調査を実施いたしました。

調査の結果、これまでの調査と同様、多量の遺物とともに縄文時代の竪穴住居跡や土坑墓、平安時代の竪穴住居跡、円形周溝などを検出し、集落の広がりを確認いたしました。

これまでに積み重ねられてきた調査成果から、本遺跡における過去の人々の生活の様相が少しずつ明らかになるうとしております。

本書は、今年度の調査成果について写真図版等を多用し、発掘調査概報としてまとめたものであり、本書が地域の歴史・文化の理解を深める一助となることができれば幸いに存じます。

調査に当たりご指導・ご協力いただきました関係各機関及び関係の方々に対し、心からお礼を申し上げます。

平成19年3月

青森市教育委員会

教育長 角 田 詮二郎

例 言

目 次

1. 本書は、青森市教育委員会が平成18年度に実施した東北新幹線建設工事に伴う新町野遺跡発掘調査の概要報告書である。
2. 新町野遺跡発掘調査は、独立行政法人鉄道建設・運輸施設整備支援機構の委託を受けて実施した。
3. 新町野遺跡の遺跡番号は、01161である。
4. 発掘調査概報は、これまで「新町野遺跡発掘調査概報」、「新町野遺跡発掘調査概報」(青森市教育委員会2004、2006)として刊行しており、本書は3冊目にあたる。
5. 発掘調査報告書は、第一、二次調査にあたる平成15、16年度分については「新町野遺跡発掘調査報告書」(青森市教育委員会2006)として刊行しており、その他については平成19年度に刊行を予定している。
6. 本書の執筆・編集は、調査担当者である小野貴之、蝦名純(青森市埋蔵文化財調査員)がおこなった。
7. 発掘調査の実施にあたって、次の機関からご指導・ご協力をいただいた。記して謝意を表する。
青森県教育庁文化財保護課、青森県埋蔵文化財調査センター、南部二区連合町会

序	
例言	
目次	
はじめに.....	1
新町野遺跡の環境.....	2
今年度の調査から.....	3
縄文時代の様相.....	6
平安時代の様相.....	9
まとめ.....	12

はじめに

独立行政法人鉄道建設・運輸施設整備支援機構（旧日本鉄道建設公団、以下鉄道・運輸機構と略）では、現在平成22年度内の早期開業を目指して東北新幹線新青森・八戸間の建設工事を着々と進めています。しかし、建設工事予定地には県内で30箇所以上の遺跡が所在していました。これらの遺跡の対応については、鉄道・運輸機構と青森県文化財保護課、関係各機関で協議した結果、多くの遺跡について記録保存を前提とした発掘調査を実施することとなりました。青森市にも本遺跡を含め複数の遺跡が所在しており、そのうち石江遺跡群、合子沢松森(2)遺跡については遺跡所在地である青森市教育委員会に調査が依頼されており、既に当委員会で発掘調査を完了しています。

新町野遺跡も新幹線の工事予定地内に所在する遺跡のひとつです。本遺跡は、昭和54年度に遺跡番号01161として青森市の遺跡台帳に登録されており、青森市大字新町野字菅谷に所在する、縄文時代と平安時代を主体とする遺跡です。本遺跡についても遺跡所在地である当委員会に調査が依頼されました。当委員会では埋蔵文化財保護行政と開発事業との円滑な調整を図るため鉄道・運輸機構の委託を受け、平成15年度から発掘調査を継続して実施しています。

今回の調査は、第四次調査にあたり現地調査の最終年度となりました。当委員会では平成18年6月5日から10月13日までの期間、面積9,600㎡を対象に発掘調査を実施しました。第一次から第四次調査の調査面積の合計は43,600㎡となります。



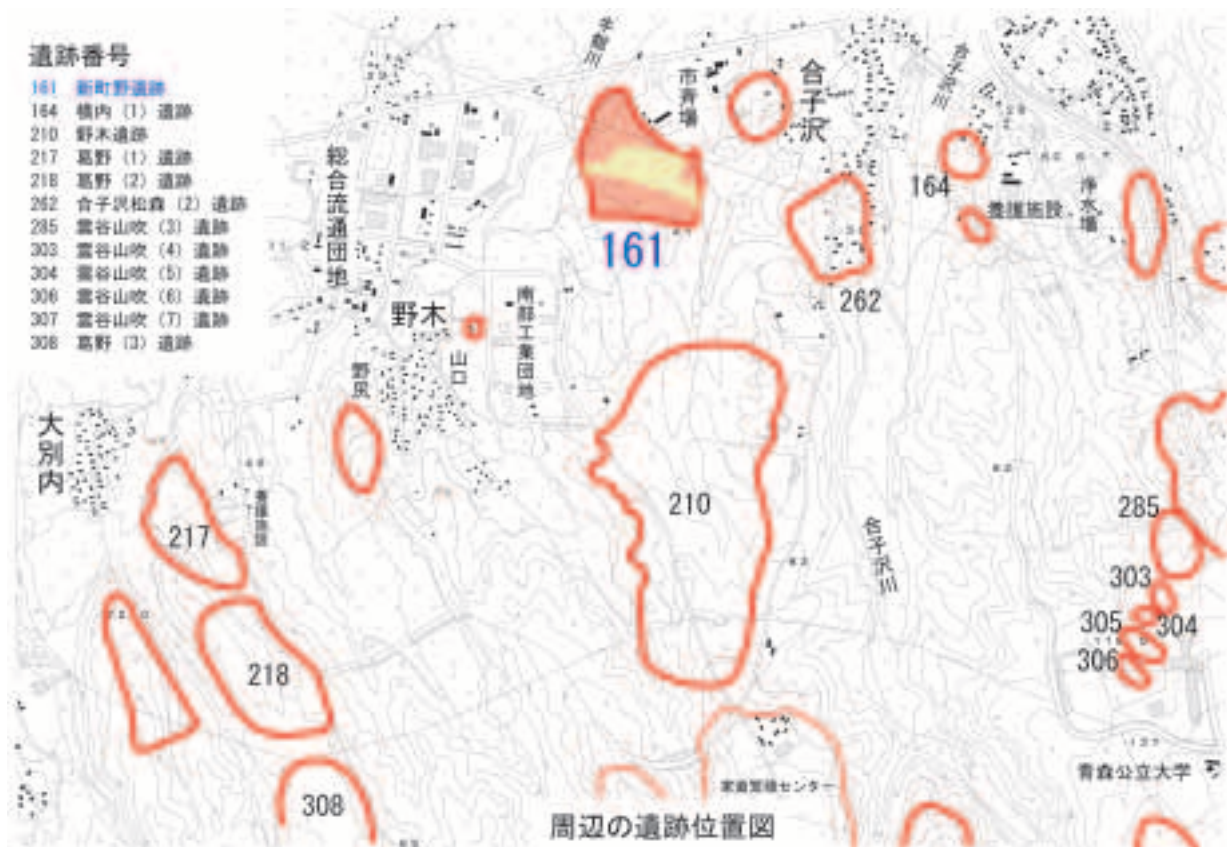
調査風景

新町野遺跡の環境

新町野遺跡は、青森市大字新町野字菅谷に所在します。青森市の南東～南部には、八甲田山の裾野にあたる火山性の台地が広がっています。本遺跡は青森市斎場の南側に位置し、火山性台地上の、牛館川と合子沢川に挟まれた標高20～40mほどの丘陵に立地しています。

本遺跡は過去に数度発掘調査が実施されています。最近の調査では、平成9年度の道路改良工事に伴う当委員会による調査で、縄文時代前期末葉の竪穴住居跡や縄文時代の土坑、平安時代の竪穴住居跡などが見つかっています。平成10年度の遊水池建設事業に伴う青森県埋蔵文化財調査センターによる調査では、縄文時代前期末葉の大型竪穴住居跡や平安時代の竪穴住居跡、鉄生産に関連すると考えられている遺構が見つかっています。また、同年の中核工業団地造成工事に伴う当委員会による調査では、縄文時代の遺構・遺物や平安時代の竪穴住居跡のほか、平安時代のお墓と考えられている円形周溝が、11基密集した状況で見つかっています。

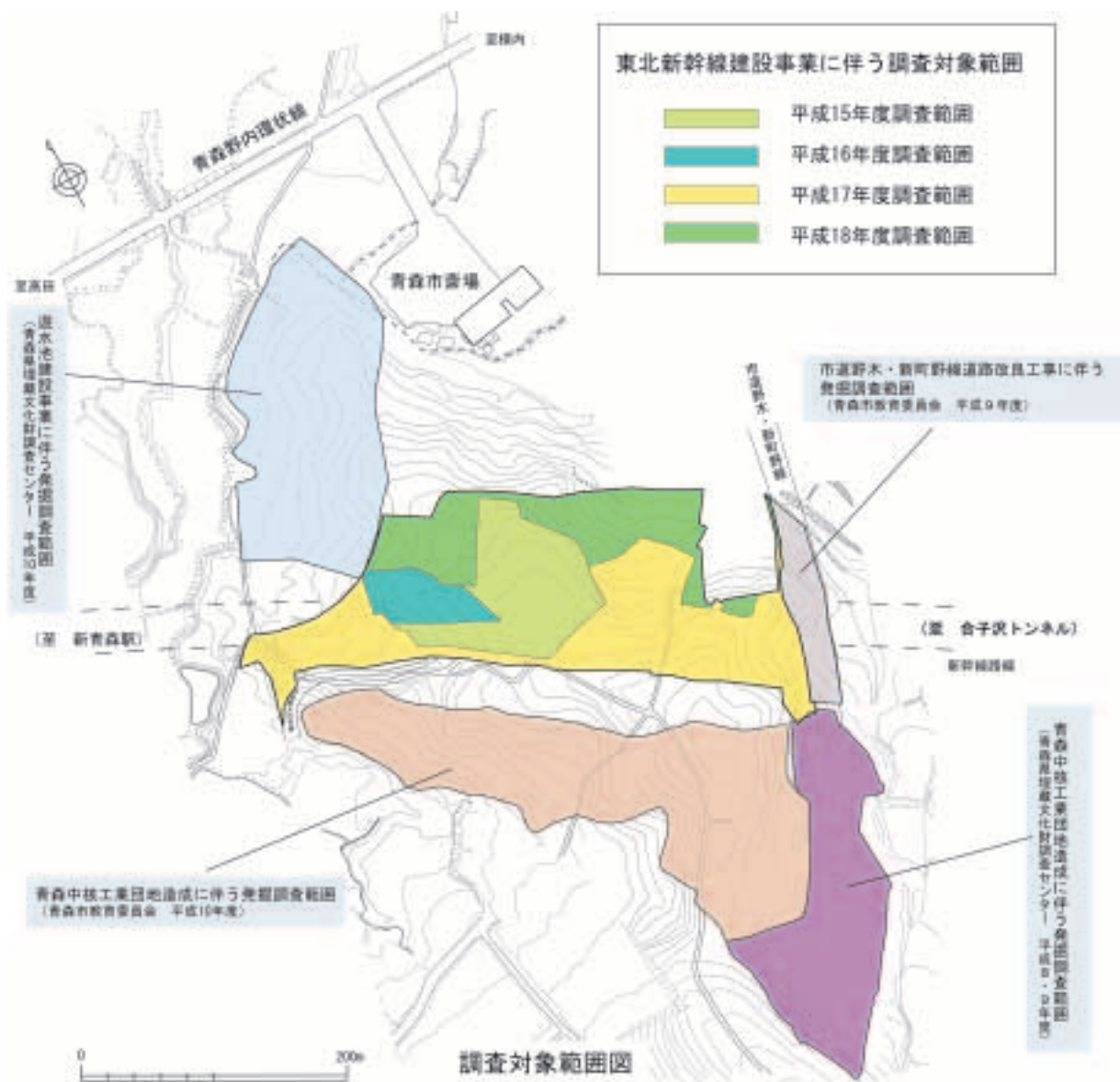
青森市内には現在約380箇所の遺跡が所在し、本遺跡の周辺でも遺跡が見つかっています。発掘調査が実施されている遺跡もあり、南にある野木遺跡では、平安時代の大規模な集落跡のほか、土師器の生産や鉄の生産・加工に関連すると考えられている遺構が見つかっています。南東にある合子沢松森(2)遺跡では平安時代の竪穴住居跡のほか、3基の円形周溝や土師器の甕2個体の口を合わせて横位に納めた土器埋設遺構が見つかっています。東には横内(1)遺跡があり、縄文時代前期末葉の竪穴住居跡のほか縄文時代早期の土器も見つかっています。さらに南東側青森公立大学付近では、雲谷山吹(3)～(7)遺跡が所在し、平安時代の集落跡が見つかっています。西を見てみると、葛野(1)～(3)遺跡があり、縄文時代や平安時代の集落跡が見つかっています。



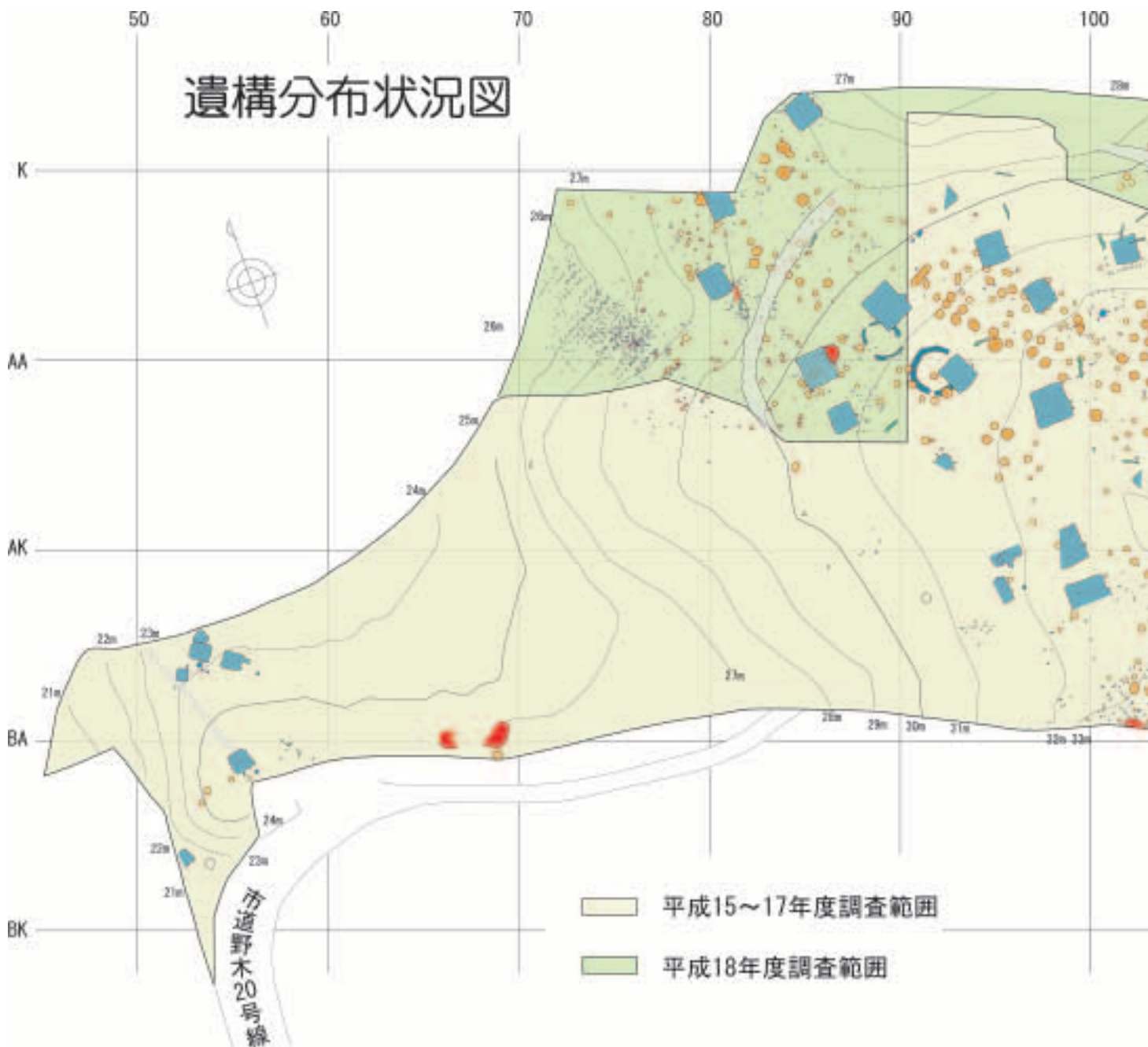
今年度の調査から

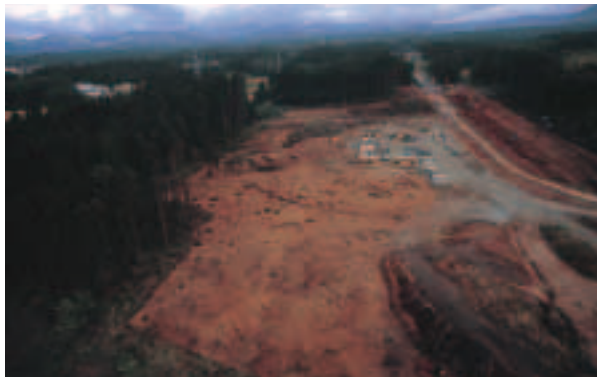
今年度の調査区は、調査対象範囲の北側を対象としています。調査区の地形は、一部重機などによる掘削や盛土などの攪乱も見られますが、丘陵頂部の平坦地とそれに挟まれる沢状地形の緩斜面となっています。

調査の結果、縄文時代では、竪穴住居跡、竪穴遺構、土坑、溝状土坑、埋設土器遺構、遺物包含層（捨て場）、平安時代では、竪穴住居跡、円形周溝、溝跡が見つっています。そのほかに、明確な時期は不明ですが、焼土遺構や柱穴状ピットが見つっています。遺物は、縄文時代では、前期末葉の土器が多数で、そのほかに石器などが見つっています。これらは、遺構の中や包含層（捨て場）から見つっています。平安時代の遺物は、土師器や須恵器などで、竪穴住居跡や円形周溝、溝跡など遺構の中から見つっています。



調査区全体を見て、遺構の分布状況は、調査区中央部分で密度が高くなっています。縄文時代の土坑は、北西から南東方向にかけて連続して見つかり、列をなすような分布状況を示しています。今年度の調査で見つかった土坑は、これらと連続する分布状況となっています。竪穴住居跡は土坑の周囲で、埋設土器遺構は、竪穴住居跡や土坑よりやや下位の地点で多く見つっています。また、平安時代の竪穴住居跡は、調査区中央部で見つかるものと、それらとは沢山の地形で隔てられた調査区東側や西側の丘陵頂部で見つかるものがあります。調査区の北西端では、約500基の柱穴状のピットが見つっています。整然と並ぶものも見られ、建物跡も見られるようです。

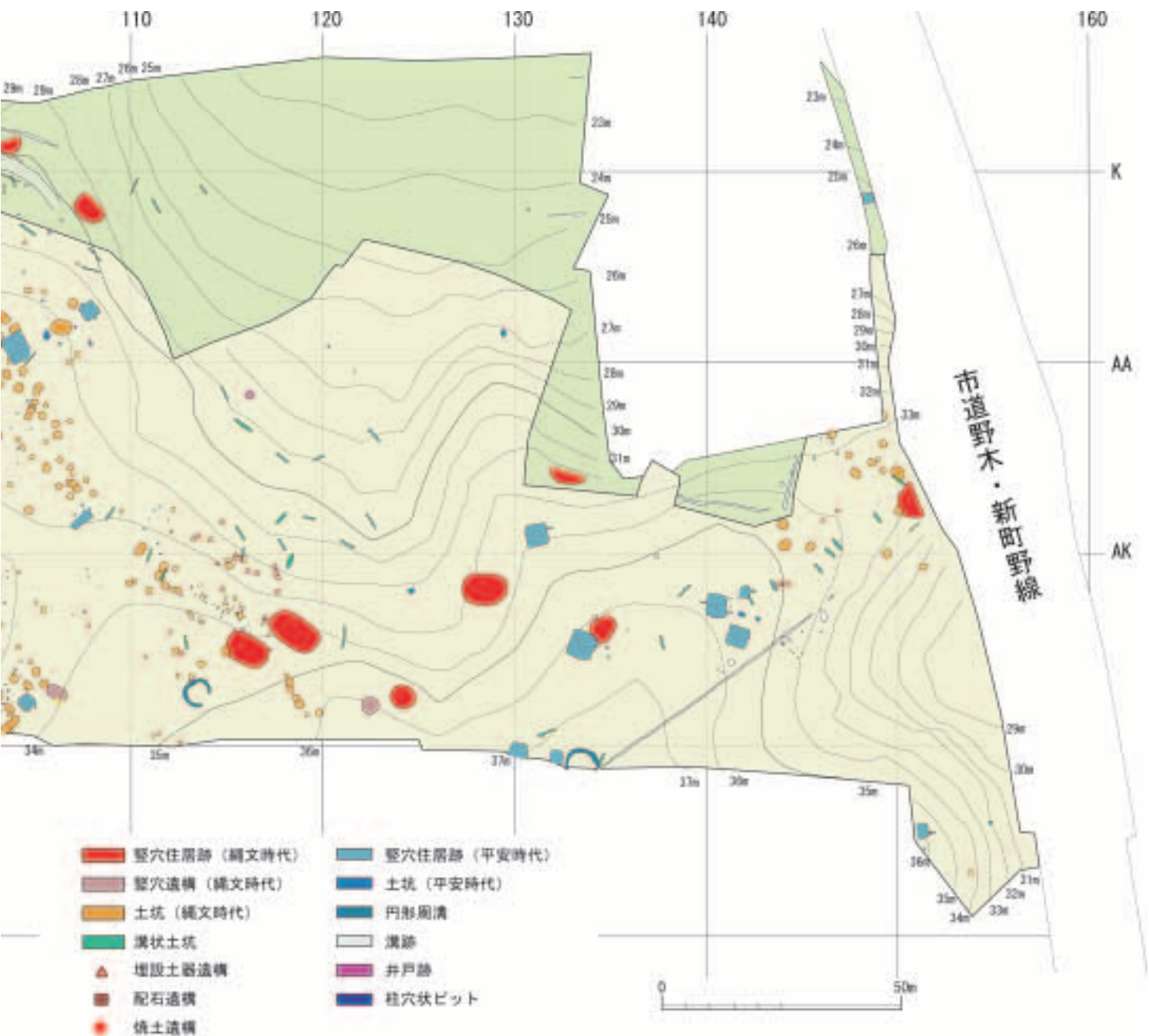




調査区遠景（西から）



遺構分布状況



縄文時代の様相

竪穴住居跡

縄文時代の竪穴住居跡は、5軒見つかっています。今から約5,000年前の縄文時代前期末葉の時期と思われます。

平面形は重複などにより全容が不明なものも見られますが、おおむね楕円形を呈するようです。住居跡の規模は、長軸が6 mほどのものと思われます。住居跡には、炉、壁溝、柱穴などの施設が見られます。炉は煮炊きや暖をとるために火を焚いた場所で、地床炉が多く見られます。壁溝は壁に沿って掘られた細い溝で、板材などを設置したと考えられています。

また、これまでの調査では、床面中央部に炉や柱穴とは異なる特殊な施設と思われる穴を有する住居跡が見つかっています。掘り込まれた穴は、開口部の周囲に粘土を堤状に貼りめぐらせています。このような施設を有する住居跡が今年度の調査でも1軒見つかっています。

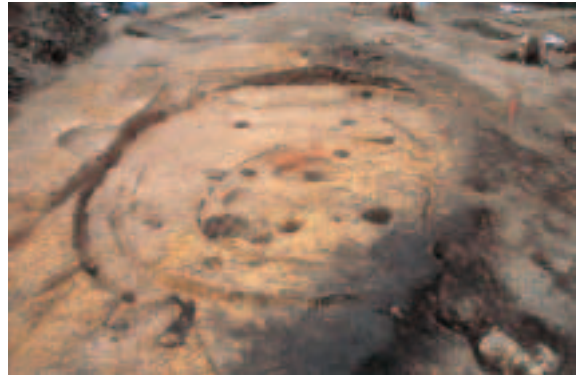
そのほか、拡張したと思われる住居跡も見つかっています。第48号竪穴住居跡は、当初2本一列の柱穴配置で、長軸3.4m、床面積6 m²ほどの小型の住居跡でした。その後、新たな炉を中心に柱穴配置が2本二列となり、加えて壁際には部分的にテラス状の施設を有する、長軸6.3m、床面積23 m²ほどの大きな住居に拡張されています。

土坑

今年度の調査で見つかった土坑のほとんどは、縄文時代前期末葉の時期と思われます。

土坑の形態には様々なものが見られ、大半は、断面の形がフラスコの形や袋のように、開口部より穴の中が広がっているタイプのものです。

これらの土坑には、底に小さな穴が見られるものが多いようです。この小さな穴は、土坑にふたをするための柱を立てたり、出入りするためのはしごをかけたりしたものでしょうか。また、小さな穴とともに細い溝が見られるものもあります。



第48号竪穴住居跡



第48号竪穴住居跡 炉



フラスコ状土坑の断面



土坑の底面の状況

溝は、底の中央の小さな穴から壁に向かって放射状に掘られています。底にたまった水を排水するような用途があったのでしょうか。

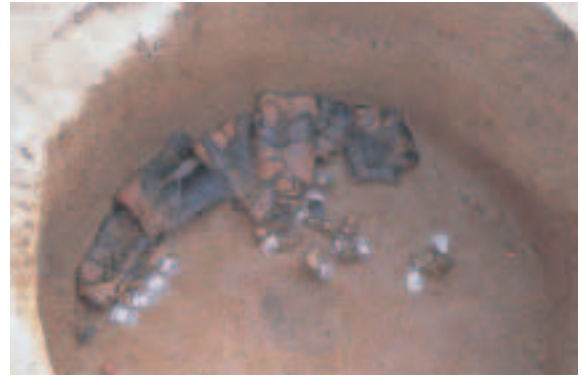
遺物の出土状況には、底面の中央に一個体の土器が見られるものや、壁際で多数の土器が横倒しになった状況のものなど特徴的な状況を呈するものが見られます。

これらの土坑には、食料を貯蔵する用途や、それを転用したお墓などの用途が考えられているようです。

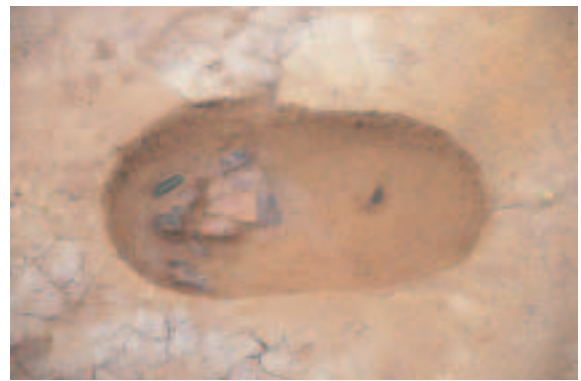
また、今年度調査区北西側からは形態の異なるやや浅い土坑が複数見られ、それらからは深鉢形土器のほか、数種類の石器が見つっています。見つかった土器は、高さが20cmほどで、本遺跡で出土する縄文時代前期末葉の時期のものの中では小型の部類です。石器とともに横位に納められているようです。

石器の種類は、狩猟に使われる弓矢の矢じりである石鏃^{せきぞく}、槍の穂先の部分の石槍^{せきそう}、皮を剥いたり切ったりするナイフのような用途が考えられている石匙^{せっぴ}、磨かれて作られた磨製石斧^{ませいせきふ}です。これらには、赤色顔料が降りかけられて赤く見える石鏃や、穂先の部分が細長く、槍の装着部分の基部に2段や3段の抉り^{えぐ}がはいる石槍が見られます。また、磨製石斧は、輝緑凝灰岩を用いた緑色をしたものが納められているようです。

これらの土坑から出土した遺物は、深鉢形の土器のほか、石鏃、石槍、石匙、磨製石斧という特定の器種の石器が納められているという点で共通しており、セット関係が考えられます。小型の土器や、基部に抉りが入る石槍、緑色をした磨製石斧などは選んで納めたのでしょうか。これらの遺物は、埋葬時に納められた副葬品と思われ、土坑は縄文時代前期末葉の土坑墓であると考えられます。



フラスコ状土坑の遺物出土状況



第15号土坑遺物出土状況



第395号土坑遺物出土状況



第554号土坑遺物出土状況

埋設土器遺構

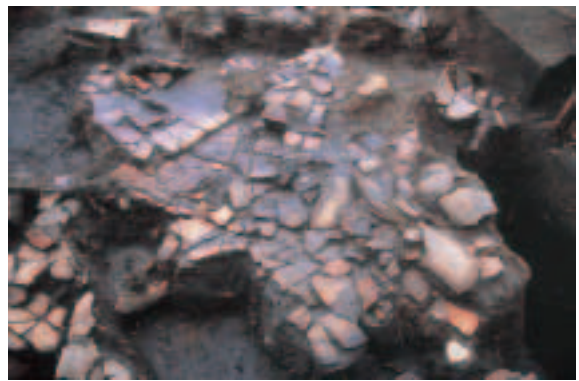
埋設土器遺構は、竪穴住居跡や土坑よりやや下位の地点で多く見ついています。遺構が設けられる地点が決められているようです。縄文時代の子供のお墓と考えられている遺構で、地面を掘り込んだ穴に土器が納められています。土器を納める際には、底を下に立てた状態にするものと、口を下に伏せた状態にするものがあります。これらは、縄文時代前期末葉の時期と思われます。



第44号埋設土器遺構

遺物包含層（捨て場）

今年度の調査では、多量の土器が出土する遺物包含層（捨て場）が見ついています。縄文時代前期末葉の時期と思われます。調査区北側の沢状地形の緩斜面で、多数の深鉢形土器が敷きつめられたように重なった状態で見ついています。



捨て場の遺物出土状況

土器は、住居跡や土坑などを掘る時に出る残土と思われる、粘土や焼土が混じった黄褐色や暗褐色をした土に含まれており、土層の断面を見ると、複数回にわたって堆積しているようです。このことから、これらの土器は残土と一緒に繰り返し同じ地点に廃棄されたものと思われます。



縄文時代前期末葉の土器

平安時代の様相

竪穴住居跡

平安時代の竪穴住居跡は、調査区の東端で1軒西側で6軒見つかっています。平面形は方形で、カマドなどの施設が見られます。

これまでの調査から、本遺跡の平安時代の住居跡には、大別して二つの時期のものが見られます。

今年度調査区西側で見つかった住居跡は、カマドを設置する壁が東壁と共通し、また、カマド及び付近の構造にも共通したものが見られます。

第51号住居跡のカマドは、煙道部が半地下式で、火床面手前に径40cmほどの小さい穴が掘り込まれており、灰を掻きだして溜めておく、灰溜ピットと思われます。また、カマド手前は径180cmほど、深さ5～10cmほどに浅く掘り込まれており、作業場的な用途が考えられます。これらの施設は、しばしばほかの住居跡でも見つかっています。それらの住居跡の規模は、床面積が23～60㎡、平均35㎡です。壁際には、壁溝が巡るものや壁柱穴が巡るものが見られます。

このようなタイプの住居跡は、出土遺物に把手付土器の破片が見られることや、覆土の堆積状況、10世紀前半の時期と考えられる円形周溝との重複関係において、住居跡の方が新しいと考えられる点などから、平安時代の住居跡の中でもより新しい段階の住居跡と思われ、大まかには10世紀後半から11世紀の時期の住居跡と思われれます。

一方、これまでの調査で見つかった9世紀後半から10世紀初頭頃の古い段階の住居跡と思われるものは、カマドを設置する壁には、北東、東、南などバラツキが見られ、煙道部には地下式の構造も見られます。住居跡覆土中には10世紀初頭に降下したと考えられている火山灰が堆積しているなどの共通点が見られます。火山灰の堆積状況には、床面付近で見られるものと、堆積土の上位で見られるものなどがあり、これらの違いについては、若干の時期差があるものと考えられます。壁際には、壁溝が巡るものが見られますが、壁際に壁柱



新しい段階の竪穴住居跡



カマド付近の様子



古い段階の竪穴住居跡



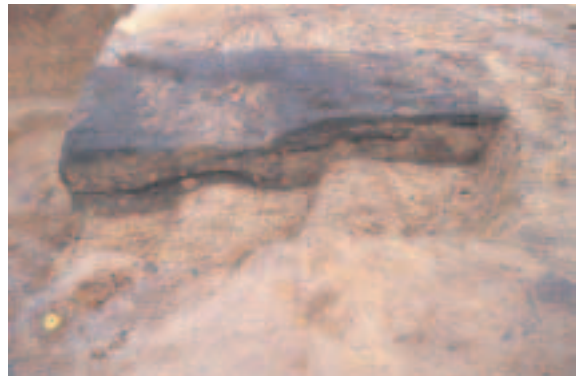
古い段階の住居跡堆積状況

穴が巡るものは、見られないようです。床面積は6～15㎡、平均12㎡で、新しい段階の住居跡よりは規模が小さくなっています。

調査区内における新旧各段階の住居跡の分布状況には違いが見られます。古い段階の住居跡は、調査区全体に点在するような状況で見つかっています。一方、新しい段階の住居跡は、調査区中央部分でややまとまって見つかっています。時期によって集落の広がり方は異なっており変化しているようです。

また、新しい段階の住居跡には、出入口と考えられる施設が見られるものがありました。カマドが設置されている東側の壁に設けられており、屋内から見て壁の右側にはカマドが、左側には施設が見られます。壁際から外側に向かって登るように、階段状ないしスロープ状に地山を掘り込んで作られています。

住居跡の出土遺物は、住居内のカマド付近から多くが見つかっています。平安時代の土師器、須恵器などが見られます。坏や甕つき、少数ですが把手付土器なども見られます。そのほか、カマドに台として設置する土製支脚しきやくや、同じく支脚として転用したと思われる羽口はぐちなどが見つかっています。住居によっては、数枚重ね合わせた坏を伏せて支脚として用いているものも見られます。また、石器では、砥石が多く見つかっています。



階段状の出入口



階段状ないしスロープ状の出入口



住居跡から見つかった平安時代の土師器・須恵器

円形周溝

円形周溝は、調査区西側で1基見つかりています。平安時代のお墓と考えられているものですが上面は削平されており、盛土、主体部の有無などは確認できませんでした。南西側の一部が途切れる形となるようです。新しい段階の住居跡と重複し、それより古いもので、覆土中では、内面が黒色処理された土師器の坏が出土したほか、平安時代の火山灰が堆積していました。10世紀前半の時期と考えられます。この時期は、新旧の住居跡の中間にあたることから、集落の時期を挟んで墓域としての性格が存在したことをうかがわせています。



円形周溝

溝跡

溝跡は12条見つかりっていますがほとんどが時期不明となっています。その中で第13号溝跡と第16号溝跡は配置状況に特徴が見られます。2条の間地点は削平されていた個所のため途切れていますが、それぞれ弧を描くように巡っており、元々は繋がった1条の溝であったのかもしれませんが。



溝跡の堆積状況

溝跡が弧状に巡る内側では、平安時代の新しい段階の住居跡が見つかりていることからこの溝跡についても同時代の可能性が考えられます。一方、溝跡の外側にも新しい段階と思われる住居跡が点在しており、溝跡に伴うものかどうかで、住居跡にも若干の時期差が考えられるようです。



第13号(右)・第16号(左)溝跡の様子

ま と め

新町野遺跡は、青森市大字新町野字菅谷に所在し、青森市南部の標高20～40mの丘陵上に立地しています。

本遺跡は、縄文時代前期末葉と平安時代の二つの時期を主体としています。当委員会では平成15年度より本遺跡の調査を継続して実施しており、調査最終年度となった今年度は、竪穴住居跡12軒、竪穴遺構1軒、土坑87基、埋設土器遺構28基、溝状土坑8基、円形周溝1基、焼土遺構11基、溝跡12条、柱穴状ピット775基などの遺構と、縄文時代前期末葉の土器、平安時代の土師器、須恵器、石器など整理用コンテナで139箱分の遺物が見つっています。

縄文時代では、竪穴住居跡、竪穴遺構、土坑、埋設土器遺構、溝状土坑などが見つっています。

土坑は、フラスコ状、袋状土坑と呼ばれる形態のものが主体を占めており、これまでの調査結果と同様に、列状に密集するような状況で見つっています。また、調査区北西側では、土坑墓と考えられる浅い土坑が複数見つっており、それらの中には、副葬品と思われる深鉢形土器と、石鏃、石槍、石匙、磨製石斧など特定の石器がセット関係となって納められていました。

平安時代では、竪穴住居跡、円形周溝、溝跡が見つっています。竪穴住居跡は、カマドを設置する壁の位置が東壁である点や半地下式となる煙道の構造、灰溜ピットやカマド手前の作業場的な浅い施設の存在など、構造に共通性が見られ、比較的近い時期のものと思われる。また、堆積状況や、出土遺物の内容などから、大まかには10世紀後半から11世紀にかけての時期が考えられます。これまでの調査で検出した他の住居跡では、それより古い9世紀後半から10世紀初頭の時期と思われるものも見つっており、平安時代の中でも集落の様子は変化しているようです。1基検出した円形周溝は、重複関係から前述した新段階の竪穴住居跡より古いもので、堆積土中には平安時代の降下火山灰が見られ、過去の調査結果も踏まえ、おおむね10世紀前半の時期が考えられます。溝跡は詳細な時期が不明なものが多数ですが、第13号溝跡と第16号溝跡は、新段階の住居跡を取り囲むような配置状況となっており、平安時代の溝跡である可能性が考えられます。

本遺跡では、これまでも数度にわたる調査が実施され、多数の遺構・遺物が見つっています。当委員会がこのたび調査を実施した地点は、過去に調査が実施された地点を結ぶ中間地点となっていることから、より本遺跡の性格が明らかになっていくものと思われる。今後、各種の自然科学的分析や各地点の調査成果を加味し、より詳細な検討を進め、本遺跡の様相を明らかにしていきたいと考えます。



作業風景

既刊埋蔵文化財関係報告書一覧

青森市の文化財	1	1962	『三内霊園遺跡調査概報』
〃	2	1965	『四ツ石遺跡調査概報』
〃	3	1967	『玉清水遺跡調査概報』
〃	4	1970	『三内丸山遺跡調査概報』
〃	5	1971	『野木和遺跡調査報告書』
〃	6	1971	『玉清水 遺跡発掘調査報告書』
〃	7	1971	『大浦遺跡調査報告書』
〃	8	1973	『孫内遺跡発掘調査報告書』
		1979	『蛭沢遺跡』
		1983	『四戸橋遺跡調査報告書』
青森市の埋蔵文化財	1983		『山野峠遺跡』
〃	1985		『長森遺跡発掘調査報告書』
〃	1986		『田茂木野遺跡発掘調査報告書』
〃	1987		『横内城跡発掘調査報告書』
〃	1988		『三内丸山 遺跡発掘調査報告書』
青森市埋蔵文化財調査報告書			
〃	第16集	1991	『山吹(1)遺跡発掘調査報告書』
〃	第17集	1992	『埋蔵文化財出土遺物調査報告書』
〃	第18集	1993	『三内丸山(2)遺跡発掘調査概報』
〃	第19集	1993	『市内遺跡発掘調査報告書』
〃	第20集	1993	『小牧野遺跡発掘調査概報』
〃	第21集	1994	『市内遺跡詳細分布調査報告書』
〃	第22集	1994	『小三内遺跡発掘調査報告書』
〃	第23集	1994	『三内丸山(2)・小三内遺跡発掘調査報告書』
〃	第24集	1995	『横内遺跡・横内(2)遺跡発掘調査報告書』
〃	第25集	1995	『市内遺跡詳細分布調査報告書』
〃	第26集	1995	『桜峯(2)遺跡発掘調査報告書』
〃	第27集	1996	『桜峯(1)遺跡発掘調査概報』
〃	第28集	1996	『三内丸山(2)遺跡発掘調査報告書』
〃	第29集	1996	『市内遺跡詳細分布調査報告書』
〃	第30集	1996	『小牧野遺跡発掘調査報告書』
〃	第31集	1997	『市内遺跡詳細分布調査報告書』
〃	第32集	1997	『桜峯(1)遺跡発掘調査概報』
〃	第33集	1997	『新町野遺跡試掘調査報告書』
〃	第34集	1997	『葛野(2)遺跡発掘調査報告書』
〃	第35集	1997	『小牧野遺跡発掘調査報告書』
〃	第36集	1998	『桜峯(1)遺跡発掘調査報告書』
〃	第37集	1998	『新町野遺跡発掘調査報告書』
〃	第38集	1998	『野木遺跡発掘調査報告書』
〃	第39集	1998	『市内遺跡詳細分布調査報告書』
〃	第40集	1998	『小牧野遺跡発掘調査報告書』
〃	第41集	1998	『野木遺跡発掘調査概報』
〃	第42集	1998	『熊沢遺跡発掘調査概報』
〃	第43集	1999	『市内遺跡詳細分布調査報告書』
〃	第44集	1999	『葛野(2)遺跡発掘調査報告書』
〃	第45集	1999	『小牧野遺跡発掘調査報告書』
〃	第46集	1999	『新町野・野木遺跡発掘調査概報』
〃	第47集	1999	『稲山遺跡発掘調査概報』
〃	第48集	2000	『熊沢遺跡発掘調査報告書』

青森市埋蔵文化財調査報告書			
〃	第49集	2000	『稲山遺跡発掘調査概報』
〃	第50集	2000	『小牧野遺跡発掘調査報告書』
〃	第51集	2000	『桜峯(1)・雲谷山吹(3)遺跡発掘調査報告書』
〃	第52集	2000	『大矢沢野田(1)遺跡調査報告書』
〃	第53集	2000	『市内遺跡発掘調査報告書』
〃	第54集	2001	『新町野遺跡発掘調査報告書』・野木遺跡発掘調査報告書』
〃	第55集	2001	『小牧野遺跡発掘調査報告書』
〃	第56集	2001	『稲山遺跡発掘調査報告書』
〃	第57集	2001	『稲山遺跡発掘調査概報』
〃	第58集	2001	『大矢沢野田(1)遺跡発掘調査概報』
〃	第59集	2001	『市内遺跡発掘調査報告書』
〃	第60集	2002	『小牧野遺跡発掘調査報告書』
〃	第61集	2002	『大矢沢野田(1)遺跡発掘調査報告書』
〃	第62集	2002	『稲山遺跡発掘調査報告書』
〃	第63集	2002	『稲山遺跡発掘調査概報』
〃	第64集	2002	『市内遺跡発掘調査報告書』
〃	第65集	2003	『雲谷山吹(4)～(7)遺跡発掘調査報告書』
〃	第66集	2003	『稲山遺跡発掘調査報告書』
〃	第67集	2003	『深沢(3)遺跡発掘調査報告書』
〃	第68集	2003	『近野遺跡発掘調査報告書』
〃	第69集	2003	『市内遺跡発掘調査報告書11』
〃	第70集	2003	『小牧野遺跡発掘調査報告書』
〃	第71集	2004	『稲山遺跡発掘調査報告書』
〃	第72集	2004	『稲山遺跡発掘調査報告書』
〃	第73集	2004	『新町野遺跡発掘調査概報』
〃	第74集	2004	『市内遺跡発掘調査報告書12』
〃	第75集	2004	『江渡遺跡発掘調査報告書』
〃	第76集	2005	『栄山(3)遺跡発掘調査報告書』
〃	第77集	2005	『赤坂遺跡発掘調査報告書』
〃	第78集	2005	『三内丸山(8)遺跡発掘調査報告書』
〃	第79集	2005	『市内遺跡発掘調査報告書13』
〃	第80集	2005	『合子沢松森(2)遺跡発掘調査概報』
〃	第81集	2005	『石江遺跡群発掘調査概報』
〃	第82集	2006	『三内沢部(3)遺跡発掘調査報告書』
〃	第83集	2006	『合子沢松森(2)遺跡発掘調査概報』
〃	第84集	2006	『新町野遺跡発掘調査概報』
〃	第85集	2006	『小牧野遺跡発掘調査報告書』
〃	第86集	2006	『市内遺跡発掘調査報告書14』
〃	第87集	2006	『新町野遺跡発掘調査報告書』
〃	第88集	2006	『史跡高屋敷館遺跡環境整備報告書』
〃	第89集	2006	『篠原遺跡発掘調査報告書』
〃	第90集	2007	『月見野(1)遺跡発掘調査報告書』
〃	第91集	2007	『市内遺跡発掘調査報告書15』
〃	第92集	2007	『新町野遺跡発掘調査概報』
〃	第93集	2007	『合子沢松森(2)遺跡発掘調査報告書』
〃	第94集	2007	『石江遺跡群発掘調査報告書』

報告書抄録

ふりがな	しんまちのいせきはくつちょうさがいほう
書名	新町野遺跡発掘調査概報
副書名	
巻次	
シリーズ名	青森市埋蔵文化財調査報告書
シリーズ番号	第92集
編著者名	小野 貴之、蝦名 純
編集機関	青森市教育委員会
所在地	〒038 - 0012 青森市柳川二丁目1番1号 TEL 017 - 761 - 4796
発行年月日	西暦2007年3月30日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		世界測地系		調査期間	調査面積 m ²	調査原因
		市町村	遺跡番号	北緯	東経			
しんまちのいせき 新町野遺跡	あおもりし 青森市大字 しんまちのあざすがや 新町野字菅谷ほか	02201	01161	40° 46 03	140° 44 58	20060605 ~ 20061013	9,600	東北新幹線建設工事に伴う事前調査

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
新町野遺跡	集落跡	縄文 平安	竪穴住居跡 12軒 竪穴遺構 1軒 土坑 87基 埋設土器遺構 28基 溝状土坑 8基 円形周溝 1基 焼土遺構 11基 溝 12条 柱穴状ピット 775基	縄文土器 土師器 須恵器 石器 土製品 石製品 鉄関連遺物	

要約	<ol style="list-style-type: none"> 1. 新町野遺跡は、火山性台地の標高約20～40mの丘陵に立地している。現在、遺跡は畑地・山林・公園緑地となっている。 2. 調査範囲は、新幹線路線部分及び付帯施設部分である。平成15年度より継続して調査を実施している。最終年度となった今年度調査は、第四次調査となる。合計発掘調査面積は、43,600m²である。 3. 今年度調査の結果、縄文時代及び平安時代の遺構・遺物を検出した。縄文時代前期と平安時代の集落跡である。 4. 縄文時代の遺構には、竪穴住居跡5軒、竪穴遺構1軒、土坑87基、埋設土器遺構28基、溝状土坑8基などがある。集落の時期は、縄文時代前期末葉である。 5. 土坑の主体は、フラスコ状、袋状土坑である。また、形状の異なる一部の土坑からは、副葬品と思われる深鉢形土器と、石鏃、石槍、石匙、磨製石斧等の特定の石器がセット関係となって出土し、土坑墓と思われる。 6. 平安時代の遺構には、竪穴住居跡7軒、円形周溝1基などがある。 7. 平安時代の竪穴住居跡は、おおむね10世紀後半から11世紀の時期と思われる。また、円形周溝は、10世紀前半の時期と思われる。
----	---

青森市埋蔵文化財調査報告書 第92集
新町野遺跡発掘調査概報Ⅲ

発行年月日 平成19年3月30日

発行 青森市教育委員会
 〒038-0012 青森市柳川二丁目1番1号
 TEL 017-761-4796

印刷 青森コロニー印刷
 〒030-0943 青森市幸畑字松元62番3号
 TEL 017-738-2021